

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 利用者：70代 女性 要介護2

利用期間 ：令和4年3月より利用

病名：左視床出血・認知症・新型コロナウイルス感染

経過：

主介助者が療養が必要となり、在宅での介護が困難の為、西伊豆健育会病院にレスパイト入院を希望され入院された。入院中に新型コロナウイルスに感染し、隔離期間が解除されるも在宅での介護は難しく当施設にご入所される。当初はBPSDが強かったが、今では笑顔で過ごされている症例。

内 容

ご利用者は在宅では息子様とお二人暮らしで、外に出ることもなく、他者との交流もなかったとの事で、コロナワクチンを一度も接種せず、また同居である主介護者が療養が必要となりレスパイト入院中にCOVID19陽性となりました。それまで杖歩行されていましたが、隔離生活による筋力と体力の低下に伴い、歩行出来なくなり、車椅子中心の生活となりました。ご入所直後は穏やかに見えたが、その夜から人が変わったように「迎えが来る」「早く支度して帰らないと」等の混乱があり、興奮した様子で帰宅願望が強く見られました。また男性介護職員の付き添いに介護拒否もありました。そこで、現在抱えている課題まとめ他職種間でカンファレンスを実施。しっかりとご本人に寄り添い、親身にお話しに傾聴したところ、ご本人はしっかり歩けるようになってキーパーソンとなっている娘さんと散歩に行きたいといった目標がありました。私たちは、ご家族に代わってお力になりたいというお気持ちをお伝えし、全部署協働で、ADL維持機能、下肢筋力の維持、向上ができるよう生活環境を整えリハビリを行うようにしました。施設で日中の活動性があがり、リハビリ等の活動をする時間が増えたことで、立位が安定し、下肢筋力の向上にもつながりました。また、下肢筋力の向上がみられたことで、PTと一緒に杖歩行訓練を実施。最初は居室から食堂までの短い距離から開始し少しずつ距離を伸ばしていき、今では見守りで約50M程歩行できるようになりました。ご本人もご家族も「もう歩けないと思っていた」と驚きと喜びのお声が聞かれています。またこれまで息子さんとお二人生活という閉鎖された空間から、施設に入所したことで、人と関わる喜びを感じ、今では積極的にフロアに出て来て、表情豊かに皆様と過ごすことに喜びを感じておられます。どんな状況でも、「あなたを大切に思っています」と伝え続け、寄り添うことで安心や信頼が生まれ今ではBPSD症状が全くなり、たくさんの笑顔とご利用者の頑張りを傍で感じる事が出来た症例です。